

## <総合人間学部言語文化学科>

国語教職課程においては、言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し的確に表現する資質や能力を育成することのできる教員養成を目指す。日本語は日本人において思考の源であり豊かな人間性を育む土台となるべき母語である。グローバル化の進む一方で、それぞれの国や民族独自の文化への関心も高まっている。

本学科のカリキュラムでは①長い歴史に培われた日本の文化を理解し、現代日本における日本語表現について深く学ぶと同時に、社会生活における伝え合う力や思考力・想像力を高める力の育成を重視している。②日本の文学・語学を世界の一言語として捉えることのできるグローバルな視点を育成することでより深い学びを追究していくことを目指している。このようなカリキュラムの特色を生かし、グローバル化や少子高齢化社会、人工知能社会など今後の日本社会の多文化・多様化・複雑化に対応できる、資質・能力をもった教員の育成を目指す。

英語教職課程においては、英語に関する言語・文化の知識と、異文化間コミュニケーションのための英語力を備えた教員の養成を目指す。英語は英語圏の言語であると同時に、アジアをはじめとする多文化社会においては共通語としての役割を担う場合が多い。本学科のカリキュラムでは、その両面を意識し、英語圏の文化を学ぶことができると同時に、異文化と向かい合うために必要な英語力、特に英語で説明する力、描写する力、意見を述べる力の育成を重視している。また、常に英語力の研鑽に励むために生涯学習も視野に入れ、自らの英語学習を設計・運営する能力の育成にも力を注いでいる。このようなカリキュラムの特色を生かし、今後の日本社会に必要な英語による異文化コミュニケーション能力を備えた教員の養成を目指す。